

臨床検査に関するお知らせ



株式会社セントラル医学検査研究所

TEL(本社)029-225-8858 (下館)0296-28-5900

先生各位

2025年3月

A-25-04

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記検査項目の測定委託先（株式会社ビー・エム・エル）より、測定機器の老朽化更新に伴い同メーカーの測定機器および機器専用試薬に変更する旨の連絡がございました。

この変更に伴い、「膣擦過物」「咽頭擦過物」での測定も可能となりますのでご案内いたします。

また、材料表記の分泌物を「子宮頸部」「膣擦過物」に変更させていただきます。

何卒ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

- ◆ 変更日 2025年4月1日（火）ご依頼分より
- ◆ 変更内容

2024・25年 検査案内	項目 コード	検査項目	変更箇所	新	旧	備考
p.24	13850	クラミジア・トラコモナス RT-PCR	検体量 (材料)	子宮頸部 膣擦過物 咽頭擦過物 尿 うがい液	分泌物 尿 うがい液	測定機器および 試薬変更による 測定可能な検体 材料の追加。 材料表記の変更。
p.30	13840	淋菌 RT-PCR				

* 上記以外の検査要項に変更はございません。

* 子宮頸管・膣・咽頭の採取方法は裏面をご参照ください。

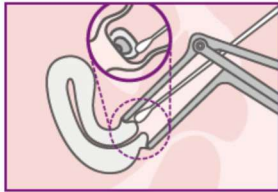
※ 検体採取上の注意

- ・【共通】 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られないことがあります。
- ・【子宮頸管、膣、尿検体】 カルボマー（カルボキシビニルポリマー）を含む膣潤滑剤、クリーム、ゲルなどの製品は、検査結果に影響する可能性があるため採取中または採取前（約24時間）に使用しないでください。
- ・【尿検体】 女性の尿を採取する前は消毒をしないでください。月経中の患者からは尿検体は採取しないでください。
- ・【うがい液】 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むなどは避けてください。

裏面に続く

子宮頸管の場合（容器 No.46）

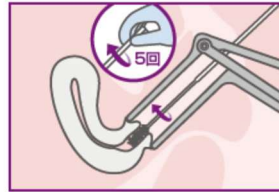
1. 子宮頸部の粘液除去



付属の**ドライスワブ**で子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭き取ります。

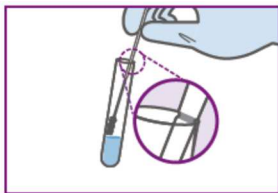
【注意】粘液を拭いたスワブは廃棄します。

2. 子宮頸管検体の採取



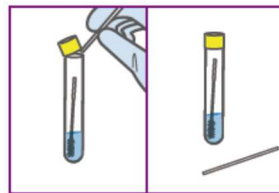
付属されている**フロックスワブ**を子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（回しすぎないでください。）スワブを引き抜く際は腔の粘膜に触れないように注意してください。

3. 子宮頸管検体の保存



コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したスワブの先端が、コバスPCRメディアの溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。

4.

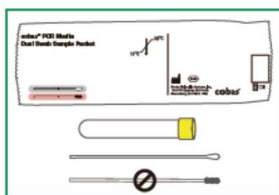


コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線の部分でスワブの柄を折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

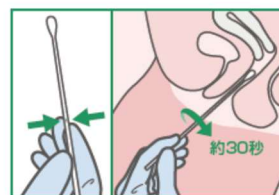
腔の場合（容器 No.46）

使用するスワブ



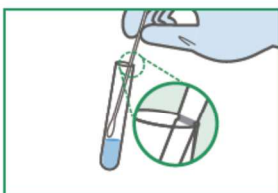
付属の**ドライスワブ**のみを使用します。フロックスワブは使用しないでください。

1. 腔検体の採取



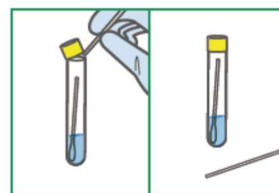
片手でドライスワブの黒い線の下側の柄を持ち、腔口から5cmほど挿入します。ドライスワブを腔壁にこすりつけるようにして時計回りに約30秒ほどゆっくりと回します。スワブを慎重に引き抜きます。コバスPCRメディアに保管するまでは先端部がどこにも触れないようにしてください。

2. 腔検体の保存



コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したスワブの先端が、コバスPCRメディアの溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。

3.



コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線の部分でスワブの柄を折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

咽頭の場合（容器 No.46）

1. 検体の採取



付属されている**ドライスワブ**を使用し、後咽頭部および扁桃腺、口蓋垂を擦過します。スワブを引き抜く際は口腔内に触れないように注意してください。

2. 咽頭検体の保存

※咽頭検体の保存は、腔検体の保存2.～3.と同様におこなってください。

